

- ・調査対象 全国18歳以上の日本国籍を有する者5,000人
- ・調査方法 郵送調査
- ・有効回答数 2,847人
- ・調査時期 2022年11月24日～2023年1月1日

職場で男女の地位が平等だと感じている人は 26.4%

2008年以降、2～3年おきに実施されてきた「男女共同参画社会に関する世論調査」の最新結果がことし3月に公表された。

今回は、調査結果のなかから、「職場における男女の地位の平等感」についてみてみたい。

日本は125位

「日本は146か国中125位」。世界経済フォーラムが発表した2023年ジェンダー・ギャップ指数（GGI：男女間の不均衡を示す指数）の総合順位である。

政財界のエリートや多国籍企業などを背景としたグローバルイノベーション推進の立場からのランキングであり、信頼性に問題があると

いう批判もあるが、主要先進国ではもっとも低い順位となった。

男女雇用機会均等法（1986年施行）、女性活躍推進法（2016年施行）などの法律や、「女性版骨太の方針」（女性活躍・男女共同参画の重点方針）など、以前から国が推進してきた男女格差の解消や不均衡是正に向けた取り組みは、残念ながらランキングには反映されていないようだ。

男性のほうが優遇されている 64.1%

「職場における男女の地位の平等感」についての調査結果では、総数で、「男性のほうが優遇されている」が64.1%、「平等」が26.4%

、「女性のほうが優遇されている」が7.7%であった。「平等」と感じている人は3割に満たない結果となっている。

女性ではほぼ7割、年代別では30代以下で5割強、40代以上では6～7割の人が「男性優遇」と感じている。

少子高齢化に伴う労働力不足やダイバーシティなどの観点からみても、性差による格差や不均衡はマイナスにしか作用しない。

現状は「男性優遇」が色濃いが、コロナ禍によって就業環境が大きく変わったことを考えれば、変化の兆しがみえてきてもおかしくはないだろう。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

職場における男女の地位の平等感

